

学 科	両学科	担 当 教 員	全教員		
授 業 科 目	倉敷学		科目区分	基礎科目	2 単 位
必修・選択	選択	授業形態	講義	開 講 時 期	1 年次・前期
授業の主題 目 標	<p><授業の主題> 豊かな芸術と文化の街、日本有数の産業都市としての倉敷市（倉敷・児島・玉島・水島・真備・船穂）を学ぶ。</p> <p><到達目標> 倉敷市の歴史、文化、産業についての学びを通して教養を深め、思考と創造の基盤を築き、生きる力を身につける。</p>				
授業の内容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> 1. 半年間の講義全体の概要やキーワードの解説、授業の魅力と意義、到達目標、成績評価方法などのガイダンス（担当：安達） 2. 日本遺産のまち倉敷。歴史とまちづくり（担当：大原・廣野） 3. 倉敷市立短期大学のこれまでとこれから（担当：木戸・濱田） 4. 倉敷市の教育と保育（担当：小久保） 5. 第四次くらしきハーモニープランの概要について（担当：眞次・宮崎） 6. 倉敷市の防災（担当：平岡） 7. 倉敷市の姉妹都市（サンクトペルデン、カンザス、クリエイストチャーチ、鎮江）（担当：長櫛・松浦） 8. 倉敷市の環境学習都市とSDGs（担当：岩崎） 9. 倉敷市の文化（音楽）（担当：三川・別府） 10. 倉敷市の文化（デザイン）（担当：田中・上村） 11. 倉敷市のファッショ（写真で見る織維産地、織維産地との産学共同研究）（担当：佐藤・道明） 12. 倉敷市のファッショ（学生服とジーンズ）（担当：乾・武永） 13. 倉敷市の芸術（担当：浅野） 14. 倉敷市のアート（担当：趙） 15. 倉敷市のアートと都市景観（担当：松内） <p>毎回の授業においてレポートを課す。 定期試験は実施しない。</p>				
実務経験を 活かす内容					
テキスト 教 材	山下祐介（2021）『地域学入門』ちくま新書 （上記のほか授業内において資料を別途適宜配布することがある。）				
準備学習の 具体的な内容	授業で扱うトピックに関連する資料を見つけて読んでおく。				
評価の方法 基 準	レポート(100%)				
履修上の 注 意	<ul style="list-style-type: none"> ・各教員の担当順は都合により変更することがある。 ・受講生の学修状況や理解度を見て、進度や順序を調整する場合がある。 				

学 科	両学科	担 当 教 員	松浦 加寿子		
授 業 科 目	文学		科 目 区 分	基 础 科 目	2 单 位
必修・選択	選択	授業形態	講義	開 講 時 期	保育2年次・後期 服美1, 2年次・後期
授業の主題 目 標	<p>〈授業の主題〉 本講義では、各時代の代表的な英語文学作品を取り上げて文学作品独特の英語表現を学ぶことで英語力向上を図るとともに、作品の背景にある文化や社会についても考察する。また、作品の世界観を掴むために映像作品を活用して理解を深める。</p> <p>〈目標〉</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 文学作品において使用されている様々な英語表現を理解することができる。 2. 作家の生い立ちや文化的・社会的背景を理解したうえで作品を解釈できる。 3. 英語で俳句や詩を創作できる。 				
授業の内容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス / 文学とは？ 2. ギリシャ神話 3. シェイクスピア 『ロミオとジュリエット』 4. シェイクスピア 『ハムレット』 5. シェイクスピア 『ハムレット』と『ライオンキング』 6. マザーグース 7. ヘミングウェイ 『雨の中の猫』 8. 英語俳句 9. 英語俳句の発表 10. ファンタジー作品のリーディング 11. 英詩 12. 英詩の発表 13. 創作ライティング 14. 創作ライティングの発表 15. まとめ <p>定期試験は実施しない</p>				
実務経験を 活かす内容					
テキスト 教 材	石塚久郎他編著 (2014) 『イギリス文学入門』三修社				
準備学習の 具体的な内 容	予習として、英文を読み、未知の単語があれば辞書で調べておくこと。				
評価の方法 基 準	受講態度 (授業への積極的な参加、コメントペーパー) 30% 課題 40% 発表 30%				
履修上の 注 意	英和辞書を持参すること。				

学 科	両学科	担 当 教 員	全 円子		
授 業 科 目	国語表現		科目区分	基礎科目	2 単 位
必修・選択	選択	授業形態	講義	開 講 時 期	保育1年次・前期 服美1, 2年次・前期
授業の主題 目 標	<p>日本語の変遷についての認識を深め、日々新たに変化する表現を身につけることを目標にする。</p> <p>本講義を通して国語表現に対する理解を深め、論理的でわかりやすい文章を書く力とコミュニケーション能力を養う。書きことばの面では、手紙やビジネス文章など実用的な文章の書き方の修得をめざす。話しことばについては、日本語のより良い表現方法を学び実践力を身につける。</p>				
授業の内容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> 1. 序講・実用的な文章の書き方について 2. リズムと文体 3. 生き生きとした表現 4. メモから原稿執筆まで 5. 手紙の書き方 6. 履歴書・お礼状の書き方(就職活動の準備Ⅰ) 7. ビジネス文章の書き方(就職活動の準備Ⅱ) 8. 説明文の書き方 9. 文章の推敲 10. 実用的な表現の仕方について 11. 話すことについて 12. 敬語の使い方 13. 電話のかけ方と受け方 14. 学習レポート作成 15. レポートテスト <p>定期試験は実施しない</p>				
実務経験を 活かす内容					
テキスト 教 材	参考図書 『日本語の作文技術』 (本多勝一, 朝日新聞社) 『ホンモノの文章力』 (樋口裕一, 集英社新書)				
準備学習の 具体的な内容	課題とする文章表現について調べる。 ミニレポート作成。				
評価の方法 基 準	授業への取り組み (40%) レポート (60%)				
履修上の 注 意	なし				

学 科	両学科	担 当 教 員	矢吹 香月		
授 業 科 目	日本国憲法		科目区分	基礎科目	2 単 位
必修・選択	保育 必修 服美 選択	授業形態	講義	開 講 時 期	保育1年次・後期 服美1, 2年次・後期
授業の主題 目 標	<p>日本国憲法が保障している基本的人権について、判例を題材として日常生活の側面からアプローチして基本的な解説を行う。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 日常生活における身近な社会問題から、個を尊重し、他者も尊重するために必要なルールについて考える力を身につける。 現代社会の様々な事象を憲法価値の実現の視点で考えることができる。 				
授業の内容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> ガイダンス 法について 憲法とは (1) 憲法の目的 憲法とは (2) 2つの憲法の間に 憲法と司法 (1) 裁判所のはたらき 憲法と司法 (2) 違憲審査制について 日本国憲法を生んだ密室の9日間 (DVD) 憲法上の人権 政治の仕組み・内閣のはたらき 憲法と消費者 (1) 憲法と民法の関係 憲法と消費者 (2) 営業の自由と消費者の権利 憲法と消費者 (3) 医療契約から自己決定権について考える 憲法と家族 (1) 結婚について考える 憲法と家族 (2) 女性の人権 憲法と家族 (3) 子どもの人権 人権のまとめ・期末試験 				
実務経験を 活かす内容					
テキスト 教 材	「憲法のちから～身近な問題から憲法の役割を考える～」中富公一編 法律文化社				
準備学習の 具体的な内容	<p>テキストの該当部分を予習・復習する。</p> <p>授業の中で、特に調べてくる事項についての調査を求める場合がある。</p> <p>現代社会で問題となっている事象について、調べておく。</p>				
評価の方法 基 準	<p>試験 (70%)</p> <p>授業毎に提出するレポート (30%)</p>				
履 修 上 の 注 意	中学校・高等学校の社会科を復習すること。				

学 科	服飾美術学科	担 当 教 員	秋川 陽一		
授 業 科 目	教育学		科 目 区 分	基 础 科 目	2 单 位
必修・選択	選択	授 業 形 態	講 義	開 講 時 期	1, 2 年次・後期
授業の主題 目 標	<p>受講者が自分の受けてきた教育や学び（学校のみならず家庭・地域社会で受けてきた教育・学び）の体験を振り返りながら、「教育とは何か？」について考察することを通して、教育学についての基礎的な知見を獲得することを主題とする。</p> <p>この考察を通じて、自らの今後の生き方と教育・学びのあり方、さらに、将来、おとな（親）として子どもの教育に関わる際の重要な考え方を身につける。</p> <p>また、保育・子育て支援のプロを養成する他学科（＝保育学科）での学修内容を知る機会にもしたいので、幼児教育・保育、子育て支援に関する内容について比較的多くの学修時間をとりたい。</p>				
授業の内容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション：自分の受けてきた「教育」を振り返ろう 2. 「教育」の意味—私たちが考える「教育」とは？ 3. 学校はなぜ作られ、どう発展してきたのか？ 4. 教育を受ける（学ぶ）ことの意義を考える—「教育基本法」の理念 5. 公教育とは？—「義務」「無償」「中立」の原則 6. 現代教育の課題と新しい学習指導要領が目指す教育改革 7. 乳幼児の教育・保育の場と幼保一元化—幼稚園・保育所・認定こども園等の役割 8. 幼稚園・保育所・認定こども園と小学校の教育・保育の内容・方法を考える 9. 幼児教育・保育の無償化はなぜ行われたのか？ 10. 現代の子ども・子育て支援（1）—その制度と現状の概要 11. 現代の子ども・子育て支援（2）—保護者の多様なニーズと今後の課題 12. 「子どもの権利条約」の精神と子どもの学び・育ちの権利保障を考える 13. 「子どもの権利条約」における子どもとおとな（親）の関係性を考える 14. これから教育の在り方を考える—「Society 5.0」「Education 2030」の想定する社会・教育の構想を踏まえて 15. まとめ <p>定期試験は実施しない（レポートを課す）</p>				
実務経験を 活かす内容					
テキスト 教 材	<p>テキストは使用せず、毎回、講義レジュメ・資料を配付する。</p> <p>参考書として、以下の文献を推薦する。</p> <p>中澤 渉『日本の公教育－学力・コスト・民主主義』中公新書（中央公論社）</p> <p>大田 堯『教育とは何か』岩波新書【新赤版】（岩波書店）</p>				
準備学習の 具体的な内 容	毎回の授業後の振り返りを行いながら、次の授業内容について事前に目を通しておくこと。				
評価の方法 基 準	<p>終講時のレポート（80%）</p> <p>自分の受けてきた教育振り返りシートの提出（20%）</p>				
履修上の 注 意	本授業は、将来、一人のおとな（親）として、子育て・教育を担うであろう学生を対象としていますが、保育・子育て支援のプロを養成する保育学科での学修も意識して授業を行いますので、保育学科の学びに興味のある学生の受講を希望します。				

学 科	両学科	担 当 教 員	土肥 直樹		
授 業 科 目	生命科学		科 目 区 分	基 础 科 目	2 単 位
必修・選択	選択	授業形態	講義	開 講 時 期	保育1年次・後期 服美1, 2年次・後期
授業の主題 目 標	<p>(授業の主題)</p> <p>人類を含めた地球に生きる生物相互のつながりや生物多様性、及び生物の進化を学び、生命のしくみとヒトの体に関して科学的な知識を深める。全体を通して、今日の地球環境や人の健康に関する諸問題に気づき、社会や個人のレベルで考え方行動する力を身につける。</p> <p>(目 標)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進化や生物の多様性、自然環境の保全などについて理解し、身近なことと関連づけて考えることができる。 ・感染症や気候変動、宇宙開発などについて理解し、自分たちの生活への影響を考えることができる。 				
授業の内容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> 1. 本講座で学習すること、ヒトのからだのしくみ 2. 生物と環境の関わり 3. 生物多様性 (課題レポート) 4. 生態系サービス 5. 地球環境問題 (課題レポート) 6. 生物の進化と系統 7. 進化のしくみ (課題レポート) 8. 野外実習 (野鳥観察) (課題レポート) 9. ヒトの染色体と遺伝子 10. DNA と遺伝子について 11. ヒトの神経系とホルモン調節 12. 発生と再生 13. 宇宙とヒト (課題レポート) 14. 微生物と免疫について 15. まとめ、定期試験 				
実務経験を 活かす内容					
テキスト 教 材	<p>パワーポイントのスライド資料を配布する。その他の資料配布は、授業の中で適宜行う。</p> <p>参考書：石浦章一『小説みたいに楽しく読める生命科学講義』羊土社</p>				
準備学習の 具体的な内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・インターネットや図書館などの利用で情報収集をすることを求める場合がある。 ・事前の準備等が必要であれば Classroom で連絡するので見ておくこと。 				
評価の方法 基 準	<p>毎回の授業後に提出する「授業まとめ」の提出 (60%)</p> <p>課題レポート (20%) 定期試験 (20%)</p>				
履修上の 注 意	<p>野外実習 (野鳥観察) を実施する予定である。学校周辺で行う予定であり、各自の費用負担はない。</p> <p>講義内容によって、別の曜日または時間帯に設定することもある。その際は事前に連絡調整を行う。</p>				

学 科	両学科	担 当 教 員	大原 啓市		
授 業 科 目	数学		科目区分	基礎科目	2 単 位
必修・選択	選択	授業形態	講義	開 講 時 期	2 年次・前期
授業の主題 目 標	<p><授業の主題></p> <p>(1) 中学・高校までの数学の問題を考えながら、数学の基礎的な知識を学習する。</p> <p>(2) 教養としての数学の考え方や歴史を概観する。</p> <p>(3) 数学における数の概念の拡張（負の数、実数、複素数）を通じて、数学的な発想法について考える。</p> <p><到達目標></p> <p>(1) 数学の基礎的な知識を習得する。</p> <p>(2) 数学の定義や対象を明らかにする。</p> <p>(3) 数学の専門用語や考え方を身につける</p>				
授業の内容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> 1. 中学数学・高校数学の基礎の復習（相似・合同・面積・体積） 2. 数と式（展開・因数分解） 3. 数と式（有理数・無理数・素数） 4. 方程式と不等式 5. 2次関数（最大・最小・グラフ） 6. 2次不等式 7. レポート課題1（二項定理・ネイピア数） 8. 中間試験（第1回から第7回までの内容について） 9. 実数と複素数 10. 図形と計量（相似・球の体積と表面積） 11. 順列・順列・重複順列 12. 組み合わせ 13. 確率 14. レポート課題2（フィボナッチ数列） 15. 期末試験（第9回から第14回までの内容について） <p>受講生の学修状況や理解度を見て、進度や順序を調整する場合があります。</p> <p>【授業の進め方】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・演習問題(4問)について解答作成を試みます。 ・ヒントと解説を行います。 ・解答例を配布します。 ・解答例も参考にして、各自解答を仕上げます。 ・仕上げた解答をGoogle Classroom課題として提出してもらいます。 ・授業で行った問題について、中間試験と期末試験を行います。 ・レポート課題1（二項定理・ネイピア数について）を課します。 ・レポート課題2（フィボナッチ数列について）を課します。 				
実務経験を 活かす内容					
テキスト 教 材	<p>毎回、演習問題（4問）と解答をClassroomより配布。</p> <p>長岡 亮介 著；高校総合的研究 シリーズ総合的研究 数学I+A（参考書）</p>				
準備学習の 具体的な内容	高等学校での数学I、数学Aの教科書を復習しておくことが望ましい。				
評価の方法 基 準	<p>「演習問題」への取り組み態度 (20%) ,</p> <p>「演習問題」の提出 (20%) ,</p> <p>レポート課題1 (10%) ,</p> <p>中間試験 (20%) ,</p> <p>レポート課題2 (10%) ,</p> <p>期末試験 (20%)</p>				
履修上の 注 意	なし				

学 科	両学科	担 当 教 員	澤田 陽一		
授 業 科 目	心理学		科目区分	基礎科目	2 単 位
必修・選択	選択	授業形態	講義	開 講 時 期	保育2年次・後期 服美1, 2年次・後期
授業の主題 目 標	<p>心は実体ではなく、身体とそれを取り囲む環境を場として働く機能である。これを踏まえ、本講義では様々な視点から、心にまつわる主要な知見を紹介する。</p> <p><到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 様々な心理学の知見を通して、人間を多方面から理解する。 (2) 特に、科学的な心理学の知見を理解し、実生活に位置づける。 (3) 心理学という学問を好きになる。 				
授業の内容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> 1. 心理学事始 <ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション ・心理学とは何か 2. 心理学の歴史 <ul style="list-style-type: none"> ・古代/中世の心理学 ・近代以降の心理学 3. 感覚・知覚・認知 <ul style="list-style-type: none"> ・表象とは何か ・世界を把握するプロセス 4. 記憶と学習 <ul style="list-style-type: none"> ・記憶の種類とメカニズム 5. 言語/思考と知能 <ul style="list-style-type: none"> ・意識と言語の関係 ・知能の諸側面 6. 情動/感情 <ul style="list-style-type: none"> ・情動/感情の役割 ・情動/感情の諸理論 7. パーソナリティ <ul style="list-style-type: none"> ・パーソナリティを捉える方法 ・対人認知と印象形成 8. 発達I：他者意識の発達 <ul style="list-style-type: none"> ・人間の発達の特殊性 ・他者身体の獲得と模倣行動 9. 発達II：自己意識の発達 <ul style="list-style-type: none"> ・身体的自己からメタ認知へ 10. 社会的影響 <ul style="list-style-type: none"> ・集団から影響を受ける個人の特徴 11. 心の臨床と健康 <ul style="list-style-type: none"> ・精神障害 ・ストレス理論と健康 12. 脳と心 <ul style="list-style-type: none"> ・脳から行動（心理）を捉える 13. 社会の中に潜在する共通心理 <ul style="list-style-type: none"> ・損失の過大視と社会的行動 14. 不思議現象を信じる心 <ul style="list-style-type: none"> ・強固な信念を作り出すメカニズム 15. 総括・試験 				
実務経験を 活かす内容					
テキスト 教 材	<ul style="list-style-type: none"> ・指定のテキストはなく、毎回オリジナルプリントを配布する。 ・参考図書として『ヒルガードの心理学 第16版』を挙げるが、あくまでオリジナルプリントを活用する。 				
準備学習の 具体的な内容	<ul style="list-style-type: none"> ・本講義では非常に多くの専門用語が提示されるため、それらを定着するために図書館やインターネット等を活用して復習することが必要である。 				
評価の方法 基 準	<ul style="list-style-type: none"> ・原則、試験（100%）のみで評価する（状況に応じてオンラインによる試験にする場合がある）。 				
履修上の 注 意	<ul style="list-style-type: none"> ・私語厳禁。 ・講義で扱う専門用語が少なくてため講義外での復習が必須である。 				

学 科	保育学科	担 当 教 員	廣野 誠		
授 業 科 目	経済学入門		科目区分	基礎科目	2 単 位
必修・選択	選択	授業形態	講義	開 講 時 期	1 年次・前期
授業の主題 目 標	<p><授業の主題></p> <p>(1) 経済学の基礎となる知識・考え方を講義する。</p> <p>(2) 今後に履修する経済学系科目と関連付けながら、経済学の幅広い分野について講義する。</p> <p>(3) 現実の社会問題を経済学的視点から解釈する。</p> <p><到達目標></p> <p>(1) 経済学を学ぶための前提となる基礎的な知識を身に付ける。</p> <p>(2) 現実の社会問題を経済学の視点からとらえることを習慣付ける。</p> <p>(3) 経済学の基礎的な用語・概念を他者に説明できる。</p>				
授業の内容 進 め 方	<p>1. 経済学とは <経済学の考え方> 2. ミクロ経済学 (1) 家計行動 3. ミクロ経済学 (2) 企業行動 4. マクロ経済学 (1) 国民経済計算 5. マクロ経済学 (2) 経済の成長 6. 産業構造の変化 7. 金融の仕組み 8. 金融市場と金融政策 9. 日本の財政 10. 財政と税制 11. 少子高齢化 12. 人口減少と社会保障 13. 世界経済と日本経済 14. グローバル化と貿易 15. まとめ・試験</p> <p>定期試験は実施する</p>				
実務経験を 活かす内容	なし				
テキスト 教 材	<p>講義資料を配布</p> <p>参考書:『日本経済と公共部門のダイナミクス』2021年、晃洋書房、(著) 南波他、</p>				
準備学習の 具体的な内容	講義資料の予習(30分)、講義内容の復習(60分)				
評価の方法 基 準	<p>授業態度(20%)</p> <p>授業中で行う演習課題(20%)</p> <p>定期試験(60%)</p>				
履修上の 注 意	なし				

学 科	保育学科	担 当 教 員	岩崎 之勇 (実務経験あり)		
授 業 科 目	経営学入門		科目区分	基礎科目	2 単 位
必修・選択	選択	授業形態	講義	開 講 時 期	1 年次・前期
授業の主題 目 標	<p><授業の主題> 経営学に関する基礎的研究、及び経営学に関する基礎的事例研究について理解する。具体的には、企業の経営戦略、経営管理、人的資源管理、会計・財務、生産・研究開発、マーケティングなどの主要論点を学ぶ。</p> <p><到達目標></p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 経営学の全体像の理解ができる。 (2) 経営学で用いられる基本的用語の理解ができる。 				
授業の内容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業概要・ガイダンス 会社の経営とは 2. 経営戦略(1) 会社はどのような方針で動くのか 3. 経営戦略(2) 会社はどんな仕組みで動いているのか 4. 経営戦略(3) 会社はどう競争するのか 5. マーケティング(1) 会社はどのようにモノを売るのか 6. マーケティング(2) 会社はどのように市場を理解するのか 7. 経営管理と組織(1) 会社はどのように管理されるのか 8. 経営管理と組織(2) 会社はどのような組織なのか 9. 人的資源管理(1) 社員はなぜ働くのか 10. 人的資源管理(2) 社員はどのように報酬を求めるのか 11. 生産管理 会社はどのようにモノを生産するのか 12. 製品開発 会社はどのように製品を開発するのか 13. 会計 会社はカネをどう管理するのか 14. 企業倫理 会社はどんな社会的責任があるのか 15. まとめ・試験 これまでの授業内容を振り返りと試験の実施 				
実務経験を 活かす内容	一般企業での実務経験を生かし、個別の指導計画や個別の教育支援計画の作成・評価・修正課程（P D C A サイクル）に関して実践的教育を行います。				
テキスト 教 材	<p>【参考文献】</p> 井原久光 (編) 2016, 『経営学入門・キーコンセプト』ミネルヴァ書房				
準備学習の 具体的な内容	各授業で配ったプリントを復習する。 授業の中で、特に調べてくる事項についての調査を求める場合がある。				
評価の方法 基 準	試験(80%)と中間レポート(20%)により評価する。				
履修上の 注 意	なし				

学 科	両学科	担 当 教 員	前田 吉広		
授 業 科 目	キャリアデザイン		科目区分	基礎科目	2 単 位
必修・選択	選択	授業形態	講義	開 講 時 期	1 年次・前期
授業の主題 目 標	<p>変化の激しい現代社会において、私たち一人ひとりが“自分らしく”生きていくために、自らのキャリアに責任を持ち、主体的にキャリアをデザインしていく力を養うこと。そのための基盤となる「基礎的・汎用的能力（論理的思考力、課題発見・解決力、ストレスコントロール力などの社会人基礎力）」を、実践的な課題とアクティブラーニングの手法を用いて身につける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自身で目標を設定し、それを達成するための計画を立て、行動することができる ・自らの行動に対して客観的な視点から評価ができる、行動を改善することができる ・他者の意見に耳を傾け、自身の考えをより良いものに発展させることができる ・正解のない問い合わせに対し、知識や経験から自分なりの答えを導き出すことができる 				
授業の内容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに、キャリアデザインとは？ 2. “大学生”って何？① -高校生との違い-, 就活シミュレーションワーク（前半）、課題1の発表 3. “大学生”って何？② -教わると学ぶ-, 将来の姿を考える 4. はたらく意味を考える① -何のために働くのか-, 個性を知る 5. はたらく意味を考える② -多様な働きかた- 6. 課題1の相互評価ワーク、課題2に向けて 7. キャリアについて考える、授業の意味を再考する 8. 自分の轍を考える、生まれ育ったところを知る 9. ライフロールを考える、自己PRを考える 10. 課題2の相互評価ワーク、課題3に向けて 11. キャリアプランを作成する① -準備- 12. キャリアプランを作成する② -実践- 13. 職業について考える 14. 課題3の相互評価ワーク、就活シミュレーションワーク（後半） 15. 振り返り、まとめ <p>定期試験は実施しない</p>				
実務経験を 活かす内容					
テキスト 教 材	<p>必要に応じて、資料などを配布する。 参考書：『キャリア基礎講座テキスト 第2版』新井明 玄田有史（日経BP）</p>				
準備学習の 具体的な内容	提示された課題に取り組み、定期的に振り返りをおこなうこと。				
評価の方法 基 準	リフレクション (60%)、課題報告レポート (40%)				
履修上の 注 意	積極的な授業参加を期待します。				

学 科	保育学科	担 当 教 員	大原 啓市		
授 業 科 目	情報機器の操作 I		科目区分	基礎科目	1 単 位
必修・選択	必修	授 業 形 態	演 習	開 講 時 期	1 年次・前期
授業の主題 目 標	<p><授業の主題></p> <p>(1) オンライン講義を受講し、課題提出と提出確認ができるように講義する。</p> <p>(2) Google Workspace の基本アプリであるメール・ドライブ・ドキュメントとスマホでの各アプリの利用ができるように講義する。</p> <p>(3) Windows とワード・エクセル・パワーポイントの基礎を講義する。</p> <p><到達目標></p> <p>(1) オンライン授業における課題提出・受講方法を習得する。</p> <p>(2) 実習を通してワード、エクセル、パワーポイントの操作法を習得する。</p> <p>(3) インターネットによる情報検索、電子メールによる情報交換の基礎を理解する。</p>				
授業の内容 進 め 方	<p>受講生がパソコンを実際に操作しながら、ウインドウズ、ワード、エクセル、パワーポイント、インターネット、電子メール等の基本操作に精通するように指導する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. PC へのログイン、Google Workspace/Google Classroom 2. Windows ファイル操作、USB メモリ保存/タッチタイピング 3. Google メール・ドライブ活用・インターネット検索 4. Google Classroom に課題提出 5. Google Meet と ZOOM によるオンライン会議 6. ワード基礎 1 (ページ設定、ページ番号等) 7. ワード基礎 2 (罫線・表作成) 8. ワード基礎 2 (図形描画) 9. エクセル基礎 (表計算・セル計算平均・標準偏差・分散) 10. エクセル基礎 (データベース、countif、円グラフ) 11. インターネット検索・情報セキュリティー 12. パワーポイントによる発表資料作成 13. パワーポイント発表 1 (第 1 グループ) 14. パワーポイント発表 2 (第 2 グループ) 15. まとめ <p>定期試験は実施しない</p>				
実務経験を 活かす内容					
テキスト 教 材	<p>参考書:保育者のためのパソコン講座—Windows 7 Office2007/2010/2013 対応版;阿部 正平 (著), 二宮 祐子 (著), 阿部 和子 (著);萌文書林 幼稚園教育要領</p>				
準備学習の 具体的な内容	タッチタイピングの練習をしっかりと行うこと。				
評価の方法 基 準	<p>授業態度 (20%)</p> <p>授業中で行う演習課題 (60%)</p> <p>発表会 (20%)</p>				
履修上の 注 意	なし				

学 科	保育学科	担 当 教 員	大原 啓市		
授 業 科 目	情報機器の操作II		科目区分	基礎科目	1 単 位
必修・選択	必修	授業形態	演習	開 講 時 期	1 年次・後期
授業の主題 目 標	<p><授業の主題></p> <p>(1) 動画作成ができるように講義する。 (2) Web サイトができるように講義する。 (3) Web アンケートの集計分析ができるように講義する。</p> <p><到達目標></p> <p>(1) 実習を通して動画作成方法を習得する。 (2) Web アンケートの実施と分析を修得する。 (3) Web サイト作成の基礎を理解する。</p>				
授業の内容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> 1. 動画編集ソフト Adobe Premiere Pro の基礎 2. 動画編集ソフト Adobe Premiere Pro の演習(1)素材収集 3. 動画編集ソフト Adobe Premiere Pro の演習(2)動画作成 4. 動画編集ソフト Adobe Premiere Pro の演習(3)テロップ作成 5. 動画編集ソフト Adobe Premiere Pro の演習(4)スマホ動画編集・カット編集 6. Google サイト作成演習(1) トップページ・サブページ・画像挿入 7. Google サイト作成演習(2) Google フォーム挿入・公開設定 8. Google サイト作成演習(3) サイト構築 9. WordPress. com による WordPress サイト作成演習(1) Google アカウントとの連携・初期設定 10. WordPress. com による WordPress サイト作成演習(2) 固定ページと投稿ページ 11. WordPress. com による WordPress サイト作成演習(3) パターンを利用したデザイン設定 12. Adobe Acrobat DC による PDF ファイル統合・スキャナー・PDF から WORD へのテキスト変換 13. Google フォームによるアンケート集計・分析 (フォーム作成) 14. Google フォームによるアンケート集計・分析 (アンケートの実施) 15. Google フォームによるアンケート集計・分析 (分析のまとめ) <p>定期試験は実施しない</p>				
実務経験を 活かす内容					
テキスト 教 材	参考書：いちばんやさしいWordPress の教本 第5版 5.x 対応 人気講師が教える本格 Web サイトの作り方（「いちばんやさしい教本」シリーズ）単行本（ソフトカバー） 石川 栄和（著），大串 肇（著），星野 邦敏（著）				
準備学習の 具体的な内 容	タッチタイピングの練習をしっかりと行うこと。				
評価の方法 基 準	授業態度 (20%) 授業中で行う演習課題 (60%) 発表会 (20%)				
履修上の 注 意	なし				

学 科	服飾美術学科	担 当 教 員	大原 啓市		
授 業 科 目	情報処理演習 I		科目区分	基礎科目	1 単 位
必修・選択	選択必修	授 業 形 態	演 習	開 講 時 期	1 年次・前期
授業の主題 目 標	<p><授業の主題></p> <p>(1) オンライン講義を受講し、課題提出と提出確認ができるように講義する。</p> <p>(2) Google Workspace の基本アプリであるメール・ドライブ・ドキュメントとスマホでのアプリの利用ができるように講義する。</p> <p>(3) Windows とワード・エクセル・パワーポイントの基礎を講義する。</p> <p><到達目標></p> <p>(1) オンライン授業における課題提出・受講方法を習得する。</p> <p>(2) 実習を通してワード、エクセル、パワーポイントの操作法を習得する。</p> <p>(3) インターネットによる情報検索、電子メールによる情報交換の基礎を理解する。</p>				
授業の内容 進 め 方	<p>受講生がパソコンを実際に操作しながら、ウインドウズ、ワード、エクセル、パワーポイント、インターネット、電子メール等の基本操作に精通するように指導する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. PC へのログイン、Google Workspace/Google Classroom 2. Windows ファイル操作、USB メモリ保存/タッチタイピング 3. Google メール・ドライブ活用・インターネット検索 4. Google Classroom に課題提出 5. Google Meet と ZOOM によるオンライン会議 6. ワード基礎 1 (ページ設定、ページ番号等) 7. ワード基礎 2 (罫線・表作成) 8. ワード基礎 2 (図形描画) 9. エクセル基礎 (表計算・セル計算平均・標準偏差・分散) 10. エクセル基礎 (データベース、countif、円グラフ) 11. インターネット検索・情報セキュリティー 12. パワーポイントによる発表資料作成 13. パワーポイント発表 1 (第 1 グループ) 14. パワーポイント発表 2 (第 2 グループ) 15. まとめ <p>定期試験は実施しない</p>				
実務経験を 活かす内容					
テキスト 教 材	令和 03 年 IT パスポートの 新 よくわかる教科書 (情報処理技術者試験) (日本語) 単行本 原山 麻美子 (著) ; 技術評論社				
準備学習の 具体的な内容	タッチタイピングの練習をしっかりと行うこと。				
評価の方法 基 準	授業態度 (20%) 授業中で行う演習課題 (60%) 発表会 (20%)				
履修上の 注 意	なし				

学 科	服飾美術学科	担 当 教 員	大原 啓市		
授 業 科 目	情報処理演習Ⅱ		科目区分	基礎科目	1 単 位
必修・選択	選択必修	授業形態	演習	開 講 時 期	1 年次・後期
授業の主題 目 標	<p><授業の主題></p> <p>(1) 動画作成ができるように講義する。 (2) 動画作成ができるように講義する。 (3) Web アンケートの集計分析ができるように講義する。</p> <p><到達目標></p> <p>(1) 実習を通して動画作成方法を習得する。 (2) Web アンケートの実施と分析を修得する。 (3) Web サイト作成の基礎を理解する。</p>				
授業の内容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> 1. 動画編集ソフト Adobe Premiere Pro の基礎 2. 動画編集ソフト Adobe Premiere Pro の演習(1)素材収集 3. 動画編集ソフト Adobe Premiere Pro の演習(2)動画作成 4. 動画編集ソフト Adobe Premiere Pro の演習(3)テロップ作成 5. 動画編集ソフト Adobe Premiere Pro の演習(4)スマホ動画編集・カット編集 6. Google サイト作成演習(1) トップページ・サブページ・画像挿入 7. Google サイト作成演習(2) Google フォーム挿入・公開設定 8. Google サイト作成演習(3) サイト構築 9. WordPress.com による WordPress サイト作成演習(1) Google アカウントとの連携・初期設定 10. WordPress.com による WordPress サイト作成演習(2) 固定ページと投稿ページ 11. WordPress.com による WordPress サイト作成演習(3) パターンを利用したデザイン設定 12. Adobe Acrobat DC による PDF ファイル統合・スキャナー・PDF から WORD へのテキスト変換 13. Google フォームによるアンケート集計・分析 (フォーム作成) 14. Google フォームによるアンケート集計・分析 (アンケートの実施) 15. Google フォームによるアンケート集計・分析 (分析のまとめ) <p>定期試験は実施しない</p>				
実務経験を 活かす内容					
テキスト 教 材	参考書：いちばんやさしい WordPress の教本 第 5 版 5.x 対応 人気講師が教える本格 Web サイトの作り方（「いちばんやさしい教本」シリーズ）単行本（ソフトカバー） - 石川 栄和（著），大串 肇（著），星野 邦敏（著）				
準備学習の 具体的な内容	タッチタイピングの練習をしっかりと行うこと。				
評価の方法 基 準	授業態度 (20%) 授業中で行う演習課題 (60%) 発表会 (20%)				
履修上の 注 意	なし				

学 科	両学科	担当 教員	松浦 加寿子		
授 業 科 目	英語 I (コミュニケーション)		科目区分	基礎科目	1 単 位
必修・選択	保育 必修 服美 選択必修	授業形態	演習	開講時期	1年次・前期
授業の主題	<p>〈授業の主題〉</p> <p>本講義では、洋楽のポップスを聞きながら英語特有の音声変化やリズムに慣れ親しみ、英語の基礎力をバランスよく向上させることを目的とする。また、文法問題や異文化トピックを扱った読解問題、スピーキングなどの演習を通して総合的な英語力の向上を目指す。</p>				
目 標	<p>〈目標〉</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 英語特有の音声変化やリズムに慣れ親しむことができる。 2. コミュニケーションに必要な基礎的な語彙や文法を習得することができる。 3. 洋楽や読み解を通して、異文化理解を深めることができる。 				
授業の内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス / You're Beautiful (Maria Lawson) 文法 : be 動詞 2. You're Beautiful (Maria Lawson) 文法 : be 動詞 3. I Want It That Way (Backstreet Boys) 文法 : 一般動詞 (現在形) 4. The First Time (Surface) 文法 : 一般動詞 (過去形) 5. Complicated (Avril Lavigne) 文法 : 進行形 6. My Heart Will Go On (Celine Dion) 文法 : 未来表現 7. With You (Chris Brown) 文法 : 助動詞 8. Torn (Natalie Imbruglia) 文法 : 受動態 9. You Are Not Alone (Michael Jackson) 文法 : 現在完了形 10. You Gotta Be (Des'ree) 文法 : 比較 11. How Crazy Are You? (Meja) 文法 : 分詞 12. Last Christmas (Wham!) 文法 : 不定詞 13. Desperade (Westlife) 文法 : 関係詞 14. All I Want For Christmans Is You (Mariah Carey) 文法 : 接続詞・前置詞 15. まとめ・試験 				
進 め 方					
実務経験を活かす内容	特になし				
テキスト教材	角山照彦 / Timothy F. Hawthorne 著『ポップスでスタート! 基礎英語』成美堂				
準備学習の具体的な内容	必ず予習をして臨み、未知の単語があれば調べておくこと。				
評価の方法基準	受講態度 (授業への積極的な参加) 20% 課題 30% 試験 50%				
履修上の注意	特になし				

学 科	保育学科	担 当 教 員	松浦 加寿子		
授 業 科 目	英語II(コミュニケーション)		科 目 区 分	基 础 科 目	1 单 位
必修・選択	必修	授業形態	演習	開 講 時 期	1 年 次・後 期
授業の主題 目 標	<p>〈授業の主題〉 グローバル化の進展で、保育所や幼稚園においても外国人園児や保護者が急増している。本講義では、外国人園児の入園を想定したテキストを用いて、保育の現場に必要な英語の基本的な語彙や表現を習得するとともに、英語で外国人園児や保護者に対応できる保育士の育成を目指す。</p> <p>〈目標〉</p> <ol style="list-style-type: none"> 保育の現場に必要な英語の基本的な語彙や表現を習得することができる。 遊びや活動などの場面で、英語で園児とコミュニケーションを取ることができる。 日常の保育や子どもの活動の様子を保護者の方に英語で説明することができる。 				
授業の内容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> ガイダンス / The School Year Begins 新学期・園の人々・園舎 Arrival 登園・家族 Playtime in the Classroom 室内あそび・欠席の連絡 In the Sandbox 外あそび・遊具 In the Playground 園庭・けんか Lunchtime 昼食・献立表 Changing Clothes and Story Time 着替え・おはなし 歌・遊びのプレゼントーション Nap Time トイレ・お昼寝 Blowing Bubbles 病気・身体の名称 A Sick Child 緊急連絡 reparation for the Sports Day 行事の案内状・電話連絡 The Sports Day 運動会・動作 Going for a Walk 散歩（1）・地図 まとめ・試験 				
実務経験を活かす内容					
テキスト 教 材	森田和子著『新・保育の英語』三修社				
準備学習の 具体的な内容	必ず予習をして臨み、未知の単語があれば辞書で調べておくこと。				
評価の方法 基 準	受講態度(授業への積極的な参加) 20% 発表 20% 小テスト 20% 試験 40%				
履修上の 注 意	英和辞書を持参すること。				

学 科	服飾美術学科	担 当 教 員	松浦 加寿子		
授 業 科 目	英語II(コミュニケーション)		科 目 区 分	基 础 科 目	1 单 位
必修・選択	選択必修	授業形態	演習	開 講 時 期	1 年 次・後 期
授業の主題 目 標	<p>〈授業の主題〉 グローバル化に伴い、ファッション業界においても英語が必要不可欠になっている。本講義では、ファッションに関するテキストを用いて、ファッション特有の語彙や表現を習得し、リスニングやスピーキングなどのアクティビティを通して基礎的な英語力の向上を目指す。</p> <p>〈目標〉</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ファッションに関する語彙や表現を習得することができる。 2. 服の色や、柄、素材などについて英語で表現することができる。 3. ファッションのトレンドやコーディネイトについて英語で説明することができる。 				
授業の内容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス / It's nice to meet you. 人の出会いに関する英語表現 2. What shall I wear? 服の種類を英語で表現 3. What color is it? 服の色や柄を英語で表現 4. What's made of it? 服の素材を英語で表現 5. Do they match? 服のコーディネイトについて英語で表現 6. What's hot and what's not? ファッショントレンドについて英語で表現 7. ファッショントレンドに関する英語の資料作り 8. ファッショントレンドに関する英語プレゼンテーション 9. What does he look like? 容姿や特徴について英語で表現 10. Where did you get it? ショップやカフェについて英語で表現 11. How do you make it? 裁縫や料理について英語で表現 12. How much is it? ショッピングについて英語で表現 13. デザインした服に関する英語の資料作り 14. デザインした服に関する英語プレゼンテーション 15. まとめ <p>定期試験は実施しない</p>				
実務経験を 活かす内容					
テキスト 教 材	小林悠子・マナル・グラント著『ファッショナブル・イングリッシュ』南雲堂				
準備学習の 具体的な内 容	必ず予習をして臨み、未知の単語があれば辞書で調べておくこと。				
評価の方法 基 準	受講態度(授業への積極的な参加) 20% 発表 40% 課題 40%				
履修上の 注 意	英和辞書を持参すること。				

学 科	両学科	担 当 教 員	松浦 加寿子		
授 業 科 目	英語III		科 目 区 分	基 础 科 目	2 单 位
必修・選択	選択	授業形態	講義	開 講 時 期	2 年次・前期
授業の主題 目 標	<p>〈授業の主題〉 本講義では、海外ドラマ『グリー』を視聴して日常会話に必要な英語の語彙・表現を理解し、習得する。また、基本的な英文法を理解するとともに、台詞のリーディング、リスニング、スピーキングなど様々なアクティビティを通して英語の4技能を向上させることを目指す。</p> <p>〈目標〉</p> <ol style="list-style-type: none"> コミュニケーションに必要な英語の語彙・表現を習得することができる。 英語特有の音声変化について理解し、リスニング力を養うことができる。 自分の気持ちや考えを英語で表現することができる。 				
授業の内容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> ガイダンス / New Directions [Grammar in Focus 動名詞] 〈Language in Focus 励ます〉 New Directions [Grammar in Focus 動名詞] 〈Language in Focus 励ます〉 What's the Other Option? [Grammar in Focus 仮定法1] 〈Language in Focus 決意を示す〉 You're Leaving Us? [Grammar in Focus 現在完了形] 〈Language in Focus 驚きを示す〉 Don't Stop Believing [Grammar in Focus 関係詞1] 〈Language in Focus 説得する〉 He's Not Coming [Grammar in Focus 不定詞] 〈Language in Focus 謝罪する〉 I Want In [Grammar in Focus 分詞] 〈Language in Focus 称賛する〉 Where Is Everybody? [Grammar in Focus 関係詞2] 〈Language in Focus 落胆を示す〉 You Inspire People [Grammar in Focus 使役動詞] 〈Language in Focus 話を切り出す〉 He Doesn't Belong Here [Grammar in Focus 進行形] 〈Language in Focus 感謝を示す〉 So Be It [Grammar in Focus 受動態] 〈Language in Focus 会話を打ち切る〉 It's a Win-Win for Both of Us [Grammar in Focus 不定代名詞] 〈Language in Focus 確認する〉 Thanks for Telling Me [Grammar in Focus 仮定法2] 〈Language in Focus 打ち明ける〉 ドラマの内容に関連したスピーキングアクティビティ&プレゼンテーション まとめ・試験 				
実務経験を 活かす内容					
テキスト 教 材	角山照彦 / Simon Capper 編著『『グリー』で学ぶコミュニケーション英語①：ニュー・ディレクションズ結成』松拍社				
準備学習の 具体的な内 容	必ず予習をして臨み、語彙と文法問題は解いておくこと。				
評価の方法 基 準	受講態度 (授業への積極的な参加) 20% 課題 30% 発表 10% 試験 40%				
履修上の 注 意	英和辞書を持参すること。				

学 科	両学科	担 当 教 員	松浦 加寿子		
授 業 科 目	英語IV		科 目 区 分	基 础 科 目	2 単 位
必修・選択	選択	授業形態	講義	開 講 時 期	2 年次・後期
授業の主題 目 標	<p>〈授業の主題〉 本講義では、海外ドラマ『グリー』を視聴して日常会話に必要な英語の語彙・表現を理解し、習得する。また、基本的な英文法を理解するとともに、台詞のリーディング、リスニング、スピーキングなど様々なアクティビティを通して英語の4技能を向上させることを目指す。</p> <p>〈目標〉</p> <ol style="list-style-type: none"> コミュニケーションに必要な英語の語彙・表現を習得することができる。 英語特有の音声変化について理解し、リスニング力を養うことができる。 自分の気持ちや考えを英語で表現することができる。 				
授業の内容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> ガイダンス /April Rhodes [Grammar in Focus 現在完了形] 〈Language in Focus 確認する〉 April Rhodes [Grammar in Focus 現在完了形] 〈Language in Focus 確認する〉 New Member [Grammar in Focus 動名詞] 〈Language in Focus 依頼する〉 Come Back to Glee [Grammar in Focus 関係詞] 〈Language in Focus 話を切り出す〉 Somebody to Love [Grammar in Focus 比較] 〈Language in Focus 援助を申し出る〉 Hairography [Grammar in Focus 不定詞 1] 〈Language in Focus 反論する〉 Objective Achieved [Grammar in Focus 進行形] 〈Language in Focus 許可を求める〉 You Set Me Up [Grammar in Focus 使役動詞] 〈Language in Focus 怒りを表す〉 True Colors [Grammar in Focus 助動詞] 〈Language in Focus 謝罪を受け入れる〉 The Thunderclap [Grammar in Focus 受動態] 〈Language in Focus 話に割り込む〉 We Need a Co-Captain [Grammar in Focus 仮定法 1] 〈Language in Focus 説得する〉 Jump [Grammar in Focus 不定詞 2] 〈Language in Focus 驚きを示す〉 Smile [Grammar in Focus 仮定法 2] 〈Language in Focus 助言をする〉 ドラマの内容に関連したスピーキングアクティビティ&プレゼンテーション まとめ・試験 				
実務経験を 活かす内容					
テキスト 教 材	角山照彦 / Simon Capper 編著 『『グリー』で学ぶコミュニケーション英語②：地区大会への道』 松伯社				
準備学習の 具体的な内 容	必ず予習をして臨み、語彙と文法問題は解いておくこと。				
評価の方法 基 準	受講態度（授業への積極的な参加）20% 課題 30% 発表 10% 試験 40%				
履修上の 注 意	英和辞書を持参すること。				

学 科	服飾美術学科	担 当 教 員	石井 成人		
授 業 科 目	フランス語 I		科目区分	基礎科目	1 単 位
必修・選択	選択	授業形態	演習	開 講 時 期	1, 2 年次・前期
授業の主題 目 標	<p>(主題) 外国語として既習の英語とはまた異なる第二外国語の基本文法について、一般教養として確認していく。一般的ヨーロッパ各国言語の基本的な文法内容（男性名詞、女性名詞、動詞の活用変化等）をフランス語で経験する。</p> <p>(到達目標)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 英語と同じアルファベットで表記されるフランス語の発音を習得する。 2. 主要各国言語で一般的な主語に対する様々な動詞活用変化に対する教養を、フランス語で経験、獲得する。 3. 学習した基本文法をふまえて、簡単なフランス語日常会話にふれて自分の言葉として運用する。 				
授業の内容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 冠詞と名詞 3. 演習（冠詞と名詞） 4. ER 規則動詞 5. 演習（ER 規則動詞） 6. 否定形・疑問形 7. 演習（否定形・疑問形） 8. 不規則動詞 AVOIR 9. 演習（不規則動詞 AVOIR） 10. 不規則動詞 ETRE 11. 演習（不規則動詞 ETRE） 12. 形容詞の性・数一致 13. 演習（形容詞の性・数一致） 14. まとめ（学習してきた文法内容全体の再確認） 15. 総復習・試験 				
実務経験を 活かす内容					
テキスト 教 材	<p>教室にてプリント配布、また参考書・辞書等指示</p> <p>参考：「ブチロワイヤル仏和辞典」（旺文社）、「コンコルド和仏辞典」（白水社）</p>				
準備学習の 具体的な内容	通常授業の中で頻繁に行われる演習において、常に既習仏語文法項目を確認、復習、整理しつつ、学習を進めていく				
評価の方法 基 準	<p>通常講義内のフランス語の前向きな学習態度（30%）</p> <p>課題（30%）</p> <p>複数回予定の小試験（20%）</p> <p>定期試験（20%）</p> <p>の総合評価</p>				
履修上の 注 意	前後期を通じて第二外国語・フランス語の学習を行うので、基本的に後期の受講は、前期履修者、またはフランス語学習経験あり、とする。				

学 科	服飾美術学科	担 当 教 員	石井 成人		
授 業 科 目	フランス語II		科目区分	基礎科目	2 単 位
必修・選択	選択	授業形態	講義	開 講 時 期	1, 2 年次・後期
授業の主題 目 標	<p>(主題) 外国語として既習の英語とはまた異なる第二外国語の基本文法について、一般教養として確認していく。一般的ヨーロッパ各国言語の基本的な文法内容（男性名詞、女性名詞、動詞の活用変化等）をフランス語で経験する。</p> <p>(到達目標)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 英語と同じアルファベットで表記されるフランス語の発音を習得する。 2. 主要各国言語で一般的な主語に対する様々な動詞活用変化に対する教養を、フランス語で経験、獲得する。 3. 学習した基本文法をふまえて、簡単なフランス語日常会話にふれて自分の言葉として運用する。 				
授業の内容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 前期の復習 2. 仏語動詞半過去形 3. 演習（時制活用練習） 4. 仏語動詞・複合過去形（助動詞 ETRE の複合過去） 5. 演習（助動詞 ETRE 過去形活用練習） 6. 仏語動詞・複合過去形（助動詞 AVOIR の複合過去） 7. 演習（助動詞 AVOIR 過去形活用練習） 8. 人称代名詞 9. 演習（代名詞書き換え練習） 10. 仏語動詞・未来形 11. 演習（未来形活用練習） 12. 代名動詞その1（代名動詞の現在形） 13. 代名動詞その2（代名動詞の複合過去形） 14. 演習（代名動詞仏作練習） 15. 総復習・試験 				
実務経験を 活かす内容					
テキスト 教 材	教室にてプリント配布、また参考書・辞書等指示 参考：「チロワイヤル仏和辞典」旺文社), 「コンコルド和仏時点」(白水社)				
準備学習の 具体的な内容	通常授業の中で頻繁に行われる演習において、常に既習仏語文法項目を確認、復習、整理しつつ、学習を進めていく				
評価の方法 基 準	通常講義内のフランス語の前向きな学習態度(30%) 課題(30%) 複数回予定の小試験(20%) 定期試験(20%) の総合評価				
履修上の 注 意	前後期を通じて第二外国語・フランス語の学習を行うので、基本的に後期の受講は、前期履修者、またはフランス語学習経験あり、とする。				

学 科	両学科	担 当 教 員	濱田 雄仁		
授 業 科 目	健康科学概論		科 目 区 分	基 础 科 目	1 单 位
必修・選択	保育 必修 服美 選択	授業形態	講義	開 講 時 期	1 年次・通年 (1/4)
授業の主題 目 標	<p>(授業の主題) 健康を支える要素として、主に運動・スポーツを取り上げ、体力の保持増進やストレス解消、レクリエーションといった機能を体験的に理解する。※授業は、後期の12月頃から7回行います。 (到達目標) 1. スポーツ・運動が心身に与える影響について説明できる。 2. スポーツ・運動の効果的な行い方について理解できる。 3. 体力を保持増進する方法について理解できる。</p>				
授業の内容 進 め 方	<p>1. 授業ガイダンス、ペアストレッ칭ングの効能の実践的理解 2. 運動・スポーツの意義：体力や生活リズムの向上、ストレス解消等の実践的理解 3. 体力の向上のためのトレーニングの実践的理解 4. 自己の体力の理解①体力テストの実践 5. 自己の体力の理解②体力テストの評価 6. 体力の向上を意図した運動・スポーツ 7. レクリエーション機能を重視した運動・スポーツ</p> <p>定期試験は実施しない</p>				
実務経験を 活かす内容					
テキスト 教 材	<p>『大学生のスポーツと健康生活』(福岡大学スポーツ科学部) 『幼稚園教育要領解説』(フレーベル館) 必要に応じて、適宜資料を配布する。</p>				
準備学習の 具体的な内 容	普段から生活リズムを整え、自己の健康の保持に努めること。				
評価の方法 基 準	各回の実践内容に関する提出物 (100%)				
履修上の 注 意	本授業は通年科目のため、履修登録は前期に行うこと。なお、「スポーツ」と内容を組み合わせて行うため、服飾美術学科の学生は、「スポーツ」を履修せずに、本授業のみを履修することはできません。				

学 科	両学科	担 当 教 員	濱田 雄仁		
授 業 科 目	スポーツ		科 目 区 分	基 础 科 目	1 单 位
必修・選択	保育 必修 服美 選択	授業形態	実技	開 講 時 期	1 年次・通年 (3/4)
授業の主題 目 標	<p>(授業の主題) 運動・スポーツに親しむ姿勢を育むとともに、必要な技能を身に付け、体力の保持増進を図るために、様々なスポーツを実践する。※授業は、前期から後期中頃までの23回で、体育館で行います。 (到達目標) 1. スポーツ・運動の意義について理解できる。 2. 各種のスポーツ・運動の特性について説明できる。 3. 体力を保持増進する方法について理解できる。</p>				
授業の内 容 進 め 方	<p>1. 授業ガイダンス、プリズンボール 2. アルティメット①：基礎的技能の練習 3. アルティメット②：応用的技能の練習 4. アルティメット③：ゲームとスキルテスト 5. フットサル①：基礎的技能の練習 6. フットサル②：応用的技能の練習 7. フットサル③：ゲームとスキルテスト 8. 卓球（ダブルス）①：基礎的技能の練習 9. 卓球（ダブルス）②：応用的技能の練習 10. 卓球（ダブルス）③：ゲーム 11. 卓球（ダブルス）④：ゲームとスキルテスト 12. ソフトバレーボール①：基礎的技能の練習 13. ソフトバレーボール②：応用的技能の練習 14. ソフトバレーボール③：ゲーム 15. ソフトバレーボール④：ゲームとスキルテスト 16. バドミントン（ダブルス）①：基礎的技能の練習 17. バドミントン（ダブルス）②：応用的技能の練習 18. バドミントン（ダブルス）③：ゲーム 19. バドミントン（ダブルス）④：ゲームとスキルテスト 20. バスケットボール①：基礎的技能の練習 21. バスケットボール②：応用的技能の練習 22. バスケットボール③：ゲーム 23. バスケットボール④：ゲームとスキルテスト</p> <p>定期試験は実施しない</p>				
実務経験を 活かす内容					
テキスト 教 材	<p>『観るまえに読む大修館スポーツルール 2022』（大修館書店編集部） 『幼稚園教育要領解説』（フレーベル館） 必要に応じて、適宜資料を配布する。</p>				
準備学習の 具体的な内 容	普段から軽い運動（体操やストレッチ、ウォーキング等）を行い、体力や体調の維持に努めること。				
評価の方法 基 準	各運動に取り組む姿勢、会場設営や所属チームへの貢献度（10%） スキルテスト（90%）				
履修上の 注 意	寒暖差の大きい体育館で身体的負荷の大きい運動を行うため、教員の指示に従い、意欲的に取り組むこと。 ジャージ等の運動ができる服装、体育館用シューズ、タオル、水分補給用の飲み物を準備して臨むこと。				